

大蛍 ゆらりゆらりと 通りけり

（一茶）

北村 豊

長野県一小さな町の小布施町では、今年も6月に、4秒毎に発光する関東型のゲンジボタルが飛び交う美しい光景を堪能することができた。毎年見るこの光景も、もしかすると年齢から今年が最後かも...と思いつつ見ていると、過去の様な記憶が呼び起されて来た。

松本歯大口腔外科には19年間奉職したが、その内の3年間は、青年海外協力隊初の歯科医の募集に幸運にも合格、休職してマレーシア国立先住民

病院で活動した。病院での重要な活動の一つはジャンゲル奥地の先住民の訪問診療であった。歯科大入学前に、東京農大で昆虫学を学んだ私には、正にそこは桃源郷で、普段夜行性ではない私も蛍の光を求めてストーカーまがいに闇夜の森をよく徘徊したものである。日本では40種以上、世界では2000種ものホタルがいるが、最も驚いたのは、東南アジアの陸生ホタルで、雌が最大で7.8cmもあり、幼形成

熟とって幼虫の形のまま成虫となり産卵までもしてしまうのである。この腹部の末端には、昆虫の中で最大の発光器を持つ。 「蛍雪の光」とは、僅かな明かりを意味するが、書によれば、ホタルの照度は3ルクスとのことである。インタネットによれば、「蛍の光で本を読めるか」を実験した好奇心旺盛な人がいて、日本一明るいゲンジボタル150頭を籠に入れてみた結果、文字はとも読めなかったそうだ。 しかしである。インタネットの無かった？古

代にマレーシアのジャンゲルで生活していた私は、夜な夜な世界最大のホタルの雌を捕まえては、ほくそ笑んだりしたもので、1頭の雌がいれば十分に本が読めることは実証済みであった。 世界最古のジャンゲル

では、今宵も夜の宴が開る。 催されているであろうと 思うと、何故かソワソワとした気分になつてく

トセセンター 所長）

オーブンガーデンに咲く 半夏生



小布施町にある当院では、診療所の庭をオーブンガーデンとして公開しています。そこでは今、半夏生の葉が一段と白く映え、夏らしい景色を見せてくれています。オーブンガーデンはもともと小布施町の取り組みの一つで、そこには訪れる人をもてなす意味が込められており、人と人の交流を望んで始められたも

庭の行事も単純な趣味の手入れとしてしまえば自己満足に終わってしまいますが、庭を通して患者さんとの心のつながりを広げていくことが大目的にあります。何においてもそうですが、目先の動作ばかりに捉われずに「何のため」にそのことが存在しているか、その行動がなされているかを考える必要があると思います。そうすればいつも目的を見失うことなく、意欲的に価値的に行動し

ていけるのではないのでしょうか。 私の家では果樹農家としており、今は葡萄の忙しい季節です。農業は自然が相手の決して楽ではない仕事ですが、私は自分たちで育てた葡萄を普段からお世話になつている方に食べて頂くことを張り合いにしています。今手を入れて、いる葡萄が、その方への恩返しになるのだと思うと俄然やる気が湧いてくるのです。葡萄も庭の植物も、愛情を込めて育てた分だけしっかりと応えてくれます。自然がそうなので、自然が人間ならすから、相手が人間ならなおのことでしょうね。 そんな素直な気持ちで、一人一人と心のつながりを育てていきたいものです。 （小布施町・医療法人 信州口腔外科インプラントセンター 歯科衛生士）

徳永 典子

オーブンガーデンを 通してできる 人と人とのつながり